

# 保育闘争委員会ニュース 公的保育を守り拡充させよう

2019年  
12月24日  
第164号

発行 = 東京自治労連保育闘争委員会 Tel.03-5940-7951 Fax.03-5940-7957 honbu@tokyo-jichiroren.org

2019・保育を楽しむための連続講座 第3回

## 「東京の保育制度の特徴～革新都政と保育運動」＋「絵本の魔法力」

第3回は、前回よりも多い40名が参加し、高橋光幸さん（自治労連保育部会長）を講師に、前半は“東京の保育条件は全国の公立保育園の中でかなり恵まれ”ていて、それは“なぜなのか”を学びました。後半は保育の中の魔法力“絵本”に焦点を当てたお話を聞きました。

東京の保育制度の最大の特徴は、ひとつひとつの事業を「制度化」し実施していることです。制度にすることで、その年によって条件が変わってしまうことがなくなり、安定して継続していくことが出来ることを学びました。保育に携わる私たちが、保育の現場の要求を伝え、この条件を守りより良いものにしていくことができると思いました。

1960年代の革新都政の時代からの、労働条件の改善・0歳児保育の開始・長時間保育・完全給食など保育運動の歴史を知りました。今の保育の当たり前は、少し前は当たり前ではなくて、一歩ずつ築いてきたからあると感じました。

次に高橋さんがよく読んでいるという絵本、スズキコージさんの『きゅうりさんあぶないよ』、『ガタンゴットン』などを読み聞かせしてくれました。掛け声あり、歌ありの参加型（対話的読み聞かせ法）がとても楽しく時間が過ぎるのがあっという間！「夢中になっている」この感覚が魔法力のパワーであると実感しました。

グループ交流では、5.6人でグループになり感想や職場でのことなどを話し合いました。公立保育園といっても自治体ごとの違いや、地方の保育園で勤務経験のある方もいて「まさにそう！」と実情を聞き、保育条件の差を感じました。講義の感想だけでなく、普段はあまり接点のない他の自治体の保育を知るよい機会となりました。

次回は1月14日（火）です。皆さんの参加をお待ちしています！



pixta.jp - 20012824

### 【参加された方の感想】

◎ 東京の働く条件が全国よりも良いと聞いて恵まれた環境で働いていることを感じながら働くことで考え方も変わると思いました。働きにくいと文句をいうのではなく、どうしたらもっと働きやすくなるか考えていきたいと思いました。（目黒区15年目）

◎ 斬新な絵本に出会いました。“子どもの頃読んだ絵本は覚えている”という意見にみんなが同意。子どもの心に残る本を読みたいと思いました。（江東区17年目）

◎ 色々な区の方の話が聞けて良かった。去年まで私立で、今年から公立で働き保育体制や休暇取得、休憩などがとれるありがたさを改めて知った。（足立区6年目）

◎ 保育士が楽しんで読んでいると子どもも楽しんでくれるということはグループ内で話をしただけで共通だった。私も本屋へ足を運んで、子どもと自分が楽しめる絵本を選んでみようと思った。（世田谷区1年目）

